



「感染拡大防止」に最善を尽くしたのか

# 問われる小池都知事の「五輪延期」決定以前

小池百合子東京都知事は3月25日の会見で「オーバーシュート(感染爆発)」の懸念を訴え、「ロックダウン(首都封鎖)」の可能性にも言及した。しかし、東京五輪延期決定以前の小池都知事の「感染拡大防止」対策には不透明な点が多い。五輪の開催に固執して、適切な対応を取らなかったのではな

横田 一



3月25日の会見で「オーバーシュート(感染爆発)」の危機を訴えた小池都知事。

「五輪ファースト・国民(都民)二の次」で安倍晋三首相と足並みをそろえていた小池百合子都知事が3月23日、五輪開催への見直しを一変させた。

3月6日の会見では、小池都知事は「(五輪を)開催できるように努めていくというのが東京都としての立ち位置」と表明していた。

しかしその後、小池都知事は2週間近く新型コロナウイルス問題について沈黙する。それでも3連休前の19日の会見では、「延期論が頭の中にあるのか」と聞かれても「具体的にどうこうという段階ではない」「(延期などの判断時期は)答えるタイミングではない」と予定通りの開催を目指す姿勢を強調、「東京

は大丈夫」と言わんばかりの楽観的見通しを繰り返していた。

しかしそのわずか4日後、23日に安倍首相が参院予算委員会で延期やむなしとする悲観的答弁をすると、小池氏も手の平を返したように延期容認で足並みをそろえたのだ。

23日の記者会見で、小池氏は爆発的感染拡大(オーバーシュート)になりかねない危機的状況を述べ始めた。「ロックダウン(首都封鎖)の可能性はある。何としても避けなければならぬ」といったインパクトのある言葉を使いながら、都民に協力を呼びかけたのだ。五輪開催の楽観論を繰り返してきた小池氏が一転、首都封鎖もあ

りうると口にした瞬間だった。

しかし、3月19日に新たに判明した感染者数は7人、23日は16人であり、4日間で爆発的に増加したわけではない。にもかかわらず状況認識が180度転換した根拠は明らかではない。

## 隠された中野区の集団感染

実は23日以前にも、都内では集団感染がいくつも発生していた。しかし小池都知事は、そのことを公表しなかった。

その一つが、中野区にあるドコモコールセンターの集団感染である。

3月20日付『毎日新聞』は次の

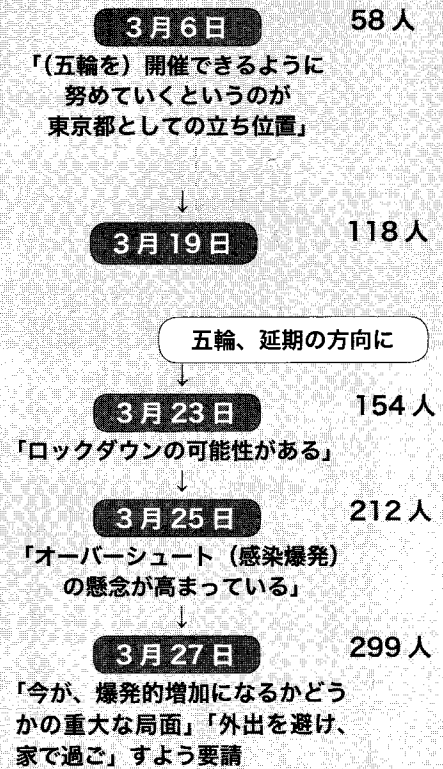
ように報じている。

「東京都内のNTTドコモのコールセンターでは、20代の女性社員の感染が確認された。同社によると、このコールセンターでは18日までに8人の感染が判明されており、都は、感染者集団「クラスター」が発生した可能性があるとみて調査している」

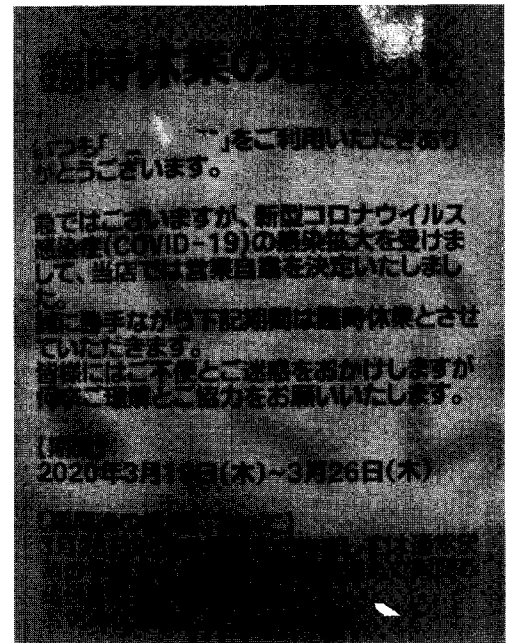
しかし記事には「中野区」とは書いておらず、都が発表している「都内コロナウイルス陽性患者」の一覧表にも「居住地 都内」としか記されていない。

その後、25日の緊急会見後の都職員レクでは、男性社員3名(3月14日に2名と翌15日に1名)と女性社員3名(3月18日に1名、

## 小池都知事の発言内容の変化 (右の数字は都内感染者数の累計)



※東京都HPをもとに編集部作成



濃厚接触者来店のため臨時休業を知らせる中野区のガールズバーの張り紙。

翌19日に1名、24日に1名)の感染が公表された。「毎日新聞」の合計9名との食違いは、「他県の在住者が含まれているため(都福祉保健局)」という。

「本店では新型コロナウイルス感染症(COVID19)の濃厚接触者が来店したとの報告を受け、昨今の状況を鑑み19日(木)より営業を自粛しております。皆様には安心してご来店いただけるよう去る3月21日(土)に指定業者により消毒作業は完了しております。薬剤の残存臭気や安心安全を考慮26日(木)まで営業自粛を継続いたします」と張り紙には書かれていた。

それだけではない。同じ中野駅北口では、近くの商店街にあるガールズバーが濃厚接触者来店で8日間(3月19日〜26日)の営業を自粛し、消毒作業が21日夜に行なわれていたのだ。

ドコモコールセンターとガールズバーは近隣で、時期も一致することから関連性が疑われる。感染拡大防止の鉄則である「感染経路追跡と濃厚接触者検査」が緊急課題のはずだ。しかしそのために不可欠な所在地公開を国(厚労省)も都も行なっていないのだ。

3月21日夜に中野駅北口商店街で防護服姿の作業員が消毒をしている写真がツイッターに投稿され、拡散された。現地を訪ねて確認すると、「臨時休業のお知らせ」と題する張り紙をしたガールズバーがあり、消毒作業中の写真付報

告書も添付されていた。「当店では新型コロナウイルス感染症(COVID19)の濃厚接触者が来店したとの報告を受け、昨今の状況を鑑み19日(木)より営業を自粛しております。皆様には安心してご来店いただけるよう去る3月21日(土)に指定業者により消毒作業は完了しております。薬剤の残存臭気や安心安全を考慮26日(木)まで営業自粛を継続いたします」と張り紙には書かれていた。

## 五輪の開催に 固執したからでは

私は、19日の定例会見で(10回連続で)質問者に指名されなかったため、会見終了直後、次のように都知事に質問を投げかけた。検査数抑制や感染経路追跡不足で感染拡大を招いた自らの職務怠慢を棚に上げ、「火消し役」としてメディアに登場しようとする小池氏の狙いも透けて見えたからだ。

「知事、中野区の下コモコールセンターの集団感染について一言、なんで地名を公開しないのですか。中野区に隠蔽要請していると聞いていますよ。ドコモは五輪のスポンサーだから公開しないのか。(都内)としか書かなかった」「毎日新聞」にも圧力をかけたのか。(中野駅)北口商店街で(濃厚

私は、19日の定例会見で(10回連続で)質問者に指名されなかったため、会見終了直後、次のように都知事に質問を投げかけた。検査数抑制や感染経路追跡不足で感染拡大を招いた自らの職務怠慢を棚に上げ、「火消し役」としてメディアに登場しようとする小池氏の狙いも透けて見えたからだ。

なぜ早く都民に危機感を訴えなかったのか。集団感染の情報を適切に開示しなかったのか。五輪の開催に固執したからではないのか。小池都知事の責任は決して軽くない。